

# 集落支援員だより

## 第15号

発行者 東和地域集落支援員

連絡先 66-2490

発行日 令和2年10月26日(月)



### 地域を想う

今回は、太田白髭の武藤長衛さん  
にごつとお願いいただきました。



NPOゆうきの里東和  
ふるさとづくり協議会  
武藤 長衛さん



現在私は「NPOゆうきの里東和ふるさとづくり協議会」の理事として活動していますが、協議会発足当初は一番の若僧で、先輩方からご指導を受けながら活動して来ました。しかし、東日本大震災以降原発事故の影響で、それまで多くの皆さんの努力により築き上げてきた様々な取り組みが崩れ去ってしまいました。「目に見えない放射能」「何が何だかわからない放射能」そんな中、「早く東和地区」に入りこ指導いただいた新潟大学教授の故野中昌法先生を中心に新潟大学、東京農工大学、横浜大学、茨城大学、福島大学などの有機農業学会の先生方には、「農地の安全」「森林の安全」

「農産物の安全」「水の安全」を継続的に調査し、ごつとより早い対策をして頂きました。そして多くの皆さんの協力により田圃の土を、水を、森林の土や落ち葉、ミミズ、大雨の時の小川の水、野菜等々、一つずつ安全を確認しながら進んで来ましたが、土からは放射能が検出されましたが、農産物の大半は基準値以下でした。残念ながら竹の子やこしあぶらからは、未だに検出されていますが、今年から米については全量検査から抽出検査に切り替わり、農産物の安全が、確認されてきました。

次はゆうきの里東和ふるさとづくり協議会組織について説明します。協議会では、市より「道の駅ふるしま東和」の指定管理者の指定を受け、会員二百四十名、理事二十一名、職員二十四名で、道の駅を拠点として活動しています。大きく「ものづくり」「人まぢづくり」の二つのグループに分かれています。ものづくりでは、「特産加工推進委員会」「あぶくま館店舗委員会」「有機産直支援委員会」があり、人まぢづくりは、「ひと・まち・環境づくり委員会」「交流定住促進委員会」があり、五つに分け活動しています。特産加工推進委員会では、東和地域の農産物を使い、加工品づくりをしています。特に桑の葉の加工に力

を入れ、旧上太田小学校に東北一の桑茶製造ラインを導入し、荒茶作りからパウダーまでの全工程を自社にて、加工し販売をしています。桑は血糖値の高い方や便秘の方に効果があると言われてしますので、健康管理のためにも多くの皆さんに飲んでいただきたいと思っています。その他にも漬物やジャム、ソースを作っています。

あぶくま店舗委員会では、会員が生産した野菜を、「東和げんき野菜」ブランドとして、道の駅の直売所や福島市内のイトーヨーカドー福島店、ダイソーエイトマックス市場屋たなつもの屋などで販売しています。会員の八割以上が六十歳以上の方で、最高年齢者は九十一歳の方です。皆さんが「体の動くうちは頑張るわ」とか「ボケ防止の為」など言いながら野菜づくりに励んでいます。野菜以外にも、今まで趣味で作っていた工芸品を販売している会員も多々います。

市場等への出荷者で組織する「ゆうき産直部会」では、ミニトマト、ナス、キュウリ、ねぎを生産しており、有機質肥料や資材等の共同購入を推進しています。また、新規就農者に対する栽培技術指導や支援も行っています。交流定住促進委員会では、新規就農者と移住者の相談、支援窓口を行っており、移住定住の勧誘の為、空き家や遊休農地等の情報収集と移住希望者への情報提供、発信に努めています。

今日まで、二十五名の方が移住者として就農しています。また、東和地域の、自然、歴史、産業の資源等を組み合わせ多様な交流を展開しており、東和グリーンツーリズム推進協議会と連携し、滞在型交流促進のため農家民宿や農業体験の拡大に向けた支援を行っています。東和地域の農家民宿も現在二十四軒ありますが、教育旅行等を受け入れる為には、まだまだ民宿が足りませんので関心のある方は道の駅まで、お気軽にお問い合わせください。ひと・まち・環境づくり委員会では、「生涯現役で暮らせる健康づくりと環境に配慮した里山の暮らしを活かした『ひとと自然に優しいまぢづくり』を推進する事業に取り組んでいます。

